

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって、

「理想」を創造する

『台風21号の対応について』

10月22日は大変な1日になりました。台風21号が接近する中、衆議院議員選挙の投開票が行われるという市町村にとって重要な仕事为重なるという事態が発生したためです。ただ、幸いなことに、台風は地震のような突発的なものではなく、進路やスピードによりある程度の予測がつかれます。今までの経験を元に、あらかじめ必要な準備をすることができず。警報が発令されるまでに、管理職が集合して、町営バスや小中学校、保育園、図書館等の対応を確認します。今回のように休日前の場合は、警報が出た時の体制を確認して、それぞれが自宅待機します。

通常であれば、管理職全員と総務課、農林産業課、建設課の職員の一部で初動体制が作れるのですが、今回は、選挙事務に大半の人員がとられたため、警報発令後も少人数での



対応になりました。防災行政無線で、警報の発令や注意事項を町民の皆さんにお伝えするとともに、強風のため飛ばされたものが交通の妨げになっているのを、撤去しに出かけたり、建設会社に対応していただくよう連絡して、対応します。選挙事務が終わってからは、全管理職が集合して、体制を組み直しました。

そして、翌日の朝、バス路線をパトロールするとともに、報告いただいた被害状況の確認を行いました。

今回は避難所の開設はお願いしませんでした。状況によつては各区長さんのお世話になることもありま。疑問な点や、提案、ご意見をできれば、平常時に総務課まで連絡いただけますようお願いいたします。

備えあれば憂いなし。日頃から気象情報に注意して、避難場所の確認等を行ないましょう。

「3000人の楽しい町」 プロジェクトチーム報告

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

今年度のプロジェクトチームは、新庁舎の設計に住民の皆様の声を反映させることを目的として活動しています。ですが、今回はちよつと閑話休題。去る10月12日(木)に、日野郡三町合同による島根県邑南町の視察研修がありました。そのことについてお話をしようと思います。

主な目的は、地域住民と地元高校との事業連携に関する視察でしたが、邑南町の先進的なまちづくりについても学べるということで、われわれプロジェクトチームから3名が参加しました。

短時間ながら非常に濃い内容の研修で、そのすべてを限られた紙面でお伝えすることはできませんので、中でも特に興味深いと感じた2点についてご報告をします。

①起業できる仕組み
邑南町は「A級グルメ」構想を掲げており、中でも町営レストラン「ajikura」は特に有名です。地域おこし協力隊を「耕すシエフ」として採用し、地元の人々と触れ合いながら農業を学び、そこに行政の支援で蓄えた起業のノウハウを加え、雇用を創出する。この「就職↓学習↓起業↓雇用」の流れが、地

域経済の活性化に繋がりが、好循環のサイクルを形成しています。

②自主性のある地域の取り組み

邑南町には現在216の集落があります。それら集落を束ねる組織である「自治会」が39組織あり、それら自治会は12の「公民館区」ごとに統括されています。

それぞれの公民館区では、地域づくりのための「戦略」が立てられています。戦略は地域住民が発案し、地域住民が主体となって行うことが条件づけられていて、行政は予算の確保や支援体制の確立などに努めているとのこと。

地域の自主性を発揮させるための仕組みづくりは、以前に視察した雲南市にも似ています。ですが、集落を束ねる「自治会」という組織は、昭和45年に過疎法ができた当時からすでに設立が始まっています。先手をとって「地域づくり」の基礎を固めてきたその考え方には、本当に驚きを隠せません。

見習うべき点、参考にすべき事例、様々あります。江府町に合った「地域づくり」とは何か、改めて考えるよいきっかけとなりました。

(谷口 宗一郎)